

第6学年 国語科×総合的な学習の時間 学習指導案

橋本市立あやの台小学校 教諭 辻本貴久

1. 単元名

読み取ったことや感じたことを表現しよう「この絵、私はこう見る」

2. 単元の目標

- ・表現の効果を確かめたり工夫したりして、自分が感じたことを伝える鑑賞文を書くことができる。
(知識・技能)
- ・鑑賞文を読み合い、ものの見方や表現方法を広げることができる。(思考・判断・表現)
- ・これまでに学習したことを生かしながら、災害に遭った人の思いに迫ろうとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

この教材は、自分が感じたことを鑑賞文に表し、それを読み合うことで、ものの見方や考え方を広げることがねらいとしている。

本学年では、防災を年間テーマに掲げ、様々な学習に取り組んでいる。これまでに、阪神淡路大震災や東日本大震災の語り部の話を聞いたり、防災キャンプを行ったりしている。国語科においても、「災害に強いまちをつくるには」をテーマに意見文を書く活動を行っている。今回は、観賞する絵を、語り部の方が紹介して下さった絵を含む、震災に関する絵にすることで、絵を自分事として捉え、自分たちが体験したことも踏まえて自分の感じたことを表現でき、SDGsの「11.住み続けられるまちづくり」 「17.パートナーシップで目標を達成しよう」につながる教材であると考えている。

(2) 児童観

本学級の児童は、朝の読書や図書の時間を楽しみにしており、授業中の隙間のわずかな時間でも、進んで本を読むことが多い。しかし、文章を書く活動については、得意な児童と、大きな抵抗を感じている児童との差が大きい。

児童は、5年生のときに、環境問題に関するグラフや表を見て、その中からどれかの資料を引用して意見を書く活動を行っている。また、6年生では、地域の防災について集めた資料を整理し、自分の考えに説得力をもたせて意見文を書く活動を行っている。

(3) 指導観

鑑賞文を書く際、抵抗感を少しでも減らせるよう、『鳥獣戯画』を読むで学習した例文の型を示した。鑑賞文を交流する際には、視点を示し、絵に込められた願いとともに、友達の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点に気づけるようにした。

そして、災害から感じたことなどを、2月16日に行われるESDフェスタで、自分たちが語り部として、地域や保護者、下級生やお世話になった方々に発信することを計画中である。

(4) ESDとの関連

- ・学習を通して主に養いたいESDの視点

【相互性】：震災について自分事として考えることを通して、自分と周りの人、自分と未来とのつながりを意識することができる。

【責任性】：震災について自分事として考えることを通して、自分の命や周りの人の命、自分たちの未来に対して責任性を意識することができる。

- ・学習を通して主に育てたいESDの資質・能力

① クリティカルシンキング（批判的思考力・代替案の思考力）

視点を示し、鑑賞文を相互評価することで、それが絵に込められた願いを伝えることになっているか検討し合う。

② システムズシンキング（総合的・多角的思考力）

一つの絵を個人で多角的に見るだけでなく、他者の見方を取り入れることで、より総合的に絵のよさやそれを伝える方法を身につける。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
表現の効果を確かめたり工夫したりして、自分が感じたことを伝える文章を書くことができる。	鑑賞文を読み合い、ものの見方や表現方法を広げることができる。	防災学習で経験したこととつなげて、災害に遭った人の思いに迫ろうとしている。

5. 単元展開の概要（国語科 全9時間）

学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考
<p>【国】『鳥獣戯画』を読むから、表現や構成の工夫を見つける。</p>	<p>絵と文章を照らし合わせながら読み取らせる。</p>	<p>◇筆者が、自分の見方や考えを読者に伝えるために、表現や構成で工夫していることを見つけることができる。</p>
<p>学習課題 「災害」に関する絵について自分の思いや考えを書こう</p>		
<p>いくつかのスピーチを聞く 【総】 KOBE 1995 「災害の本当の姿」 【道】 猿渡瞳 「命を大切にする」 【総】 佐藤敏郎 「3. 11を学びに変える」 【総】 防災キャンプ</p>	<p>言葉のチカラと重要性を意識させる。</p>	<p>・ 共通経験を土台とすることで鑑賞文を書いたり交流したりする際の議論を活発化させることができた。</p>
<p>【国】自分の決めた絵について想像をふくらませる。</p>	<p>災害に関する4つの絵を用意し、自分が鑑賞文を書きたい絵を選ばせる。</p>	<p>◇自分が選んだ絵から想像したことを書くことができる。 ・ 年間テーマである防災と組み合わせることで課題意識を高めることもできた。</p>
<p>【国】表現や構成を工夫しながら鑑賞文を書く。</p>	<p>鑑賞文の型を提示して、工夫した文章を書かせる。</p>	<p>◇例文の型を生かして、表現や構成を工夫しながら鑑賞文を書くことができる。</p>
<p>【国】鑑賞文の交流会をする。 (本時)</p>	<p>交流する際の視点を3点与え、アドバイスしあえるようにする。</p>	<p>◇友達の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点に気づくことができる。</p>
<p>【総】災害から感じたことを伝える方法を計画し、実践する。</p>	<p>現在進行中</p>	

6. 本時の学習

(1) 本時の目標

友達の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点に気づき、鑑賞文の表現の工夫を理解することができる。

(2) 本時の評価基準

友達の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点を書くことができる。

(3) 学習展開の概要

主な学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考
1. 自分の鑑賞文を読み直す。	文章を読み直し、誤字や主語と述語の関係でおかしなところはないかなどを確かめさせる。	
「この絵、私はこう見る」交流会をしよう		
2. 鑑賞文を交流しあう。	視点を3点与え、達成できているかをお互いに評価させる。できていた場合はそのよさを、できていなかった場合はどうすればよいのかをアドバイスさせる。	
3. 鑑賞文を書くときの、表現の工夫をまとめる。	今後、鑑賞文を書く活動につながるようにする。	
4. 学習をふり返る。		◇友達の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点に気づき、鑑賞文の表現の工夫を理解することができる。